



2021年 12月 人権一口講座



「世界人権デーに寄せて」

先生、お久しぶりです。お元気ですか？ 私は元気です！ 私事ですが、一浪の末、九州大学に合格し、今年の春から大学生になりました。大学生活にも慣れてきたところですが、思い返しますと、先生には命の大切さを教えていただきました。本当に、ありがとうございます。小学校1・2年生の頃の私の記憶は、先生の記憶しかありません(笑)

この葉書は先生が二十歳になったら送ってくださいね。」と仰って、私たちに下さったものです。私はこの葉書を先生にお書きするのを楽しみにしております。お身体に気を付けてお過ごしください。

奈々子(※仮名)



3年前の5月中旬に、「石庭」を描いた絵葉書が自宅に届きました。見覚えある絵だったので郵便受けから取り出し、すぐに文面を読み始めました。懐かしさで涙が流れ、喜びで胸いっぱいになりました。

奈々子さんはとても目立つ子でした。ですがそれは外見だけの事です。背が高く、とても色白で、笑顔が可愛いおとなしい性格の子。私も1・2年担任をした時、困ったことは全くありませんでした。ですが、彼女なりに心の中に「困り感」を抱いていたのです。

奈々子さんのお父さんは「中国出身」、お母さんは「日本」、熊本出身です。お父さん、お母さんは縁あって知り合い、その後結婚します。姉が生まれ、続いて奈々子さんが生まれます。大切な命として彼女たちは誕生したのです。ですが、成長するうちに彼女は自分を取り巻く環境の「空気感の違い」に気づきます。

「私って友だちと違って居るの？」友だちの間では、「あの子のお父さん、日本の人じゃないんだって。お母さんが言っていた。」と広まっていたようでした。町内会では「頼りになる住民」として大活躍の「お父さん」でした。ですが、そのお父さんをよく知らない人が「あの人は・・・とかげ口をしていたのです。」

私は、「国は違っても、大切なひとりの人」。他国を知ってもらい、同時にその人となりも知ってもらいたい！「人」としてちゃんと見て欲しい！」と思い、学校で行う学年親子活動で「中国水餃子作り」を実施しました。親子活動ですが、おじいちゃんおばあちゃん達も誘ってそれは大盛り上がり。地域の仲間として認めてくれました。かれこれ十五年くらい前の話です。

彼女を含め二十七名と一緒に教室で過ごしました。そんな私もその半年前まで開頭手術を受けて入院していた身。だから、いつどうなっても後悔しないように、クラスの子とも達には、「家族には口頃から感謝を含め、言葉も多く交わして欲しい！」と言いつづけていました。手術が成功するかどうか分からない時を経験した私は、手術に向かう前、家族に言葉を伝えることが出来なかつたのです。子ども達には「率直に伝える大切さ」を伝えなかつたのです。「今を生きる命の大切さ」を分かつて欲しかったのです。

十二月十日は世界人権宣言が採択された日を記念して「世界人権デー」となっています。「人は生まれながらにして基本的人権を持っていて、人として尊ばれるべき」なのです。

この機会に、「世界人権宣言ってなあに。」「人権ってなあに。」と考える時間を、しばし持つてはいかがでしょうか。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」十二月号)

短いメッセージ 何気ない会話が 明日への励ましに
なっていることに気づけた 何となく 幸せ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 湖東中学校3年 唐嶋 花豪さんの作品より